

かわつる発

元気な

コミュニティー

ひまわり



お手伝いし隊結成のきっかけとなった、依頼が一番多い資源ごみの搬出。



「お手伝いし隊」代表の小野さん

市内の65歳以上の高齢者は、現在五人に一人。五年後には四人に一人になるといわれています。急速な高齢化は、川越でも深刻な問題。地域での助け合いは、その必要性和重要度を増しています。

新興住宅地から約三十年を経た、かわつる三芳野団地。この団地も高齢化の波は例外ではありません。そこで活躍するボランティアグループ「お手伝いし隊」。地域の「コミュニティ」を大切にし、住民同士が助け合う交流が深まっています。

かわつる三芳野団地に住む小野浩さん(71歳)は、以前自治会の環境活動をしていました。そこで見た団地内の光景で、高層階に住んでいるお年寄りが、重い資源ごみを運んでいる姿がありました。「何か手伝いできる方法はないものか」と考え、十年ほど前に「お手伝いし隊」の活動を思いついたのです。

活動は、資源ごみ回収の日、あらかじめ運搬を希望する家庭から集積場へ、重いごみを運ぶ手伝いから始まりました。現在は、手伝いをする項目は、病院への送迎、買い物の手伝い、話し相手など十三項目に増えています。利用方法は、いたって簡単です。団地内の回覧で、手伝いを受けたい希望者を募集します。項目や時間などを調整し、57歳から71歳まで、主婦や元会社員などの十四人の手伝いメンバーに振り分けられます。手伝いを受けたい人は70歳から92



「階段を下りるのが苦手なので、とても助かっています」と青山さん

歳までの、一人世帯などの八人が登録しています。

残念なことに無償で手伝いをしてもらうことをためらう方々がいらつしやる現状があり、「お年寄りに、もっと気軽に申し込んでほしいですね」と副代表の昇三枝子さん。

「ありがたいの思いを手紙に書こうと思

っています」と利用者の一人青山絹子さん。「利用しているお年寄りや街で会うと、世間話に花が咲きます」と幹事の村瀬直子さん。この活動を通じて、地域のつながりが深まっています。

「今後は、若い世代も混じって、近くに住む皆さんが、共に助け合って行くような地域となつて欲しいと思います」と小野さん。市内での活動が広がっていくといいですね。



左から昇さん、小野さん、村瀬さん

## 25種類のスポーツに挑戦



ボールが空中で不規則に変化

5月15日、スポーツ少年団体育祭が川越運動公園で開催されました。初めて体験する、さまざまなスポーツに約1,400人の小中学生が参加。だ円形ボールを使用するヘルスパレーボール(写真)では、「思わぬところへ飛んでいくからおもしろい」と歓声が起こっていました。

## オータン市長が表敬訪問



硬く握手を交わすオータン市長と川合善明川越市長

5月14日、姉妹都市のフランス共和国、オータン市のレミー・ルベロット市長一行が、本市を表敬訪問しました。本庁舎南側に設置された電光掲示板にフランス語で「ようこそ川越へ」とのメッセージに感激した同市長。訪問後、蔵造りの町並みを歩き、川越まつり会館を見学。同館で山車の説明を受け、制作費用が「家1軒分」と高額なことに、驚いていました。

ひま  
ち

ふおとこ  
ニュース

ひま  
ち

行って 会って 体験  
気になるイベントや人を紹介

## 小江戸あるき

ひま  
ち



ボーイスカウト日本連盟ビル(三鷹市)で行われた交信の様子

## 国際宇宙ステーションと無線交信に成功

地上から約四百キロメートル離れた地球周回軌道上を、一周約九十分(時速約二万八千キロメートル)で移動する国際宇宙ステーション。そこに滞在する宇宙飛行士・野口聡一さんと、ボーイスカウト川越第九団の土居佳史くん(中学3年生)、嶋村賢人くん(同)、竹村有紀くん(同)、松本拓也くん(中学2年生)が、アマチュア無線で交信しました。

交信は、現在もボーイスカウト活動にかかわっている野口さんが、国内のボーイスカウトとの交信を希望したことから実現したものだ。交信のチャンスは、宇宙

ステーションが日本の上空を通過する、5月5日に日付けが変わる深夜0時近くの約10分間のみ。無線機のマイクを握る手に、自然と力が入ります。

四人は、「水をどのよう



左から竹村くん、嶋村くん、松本くん、土居くん

んでいるのですか」「生活で一番大変なことは何ですか」「地球はどのように見えますか」「ごみはどうしているのですか」と質問。野口さんからは、「水はストローのついた密閉容器で飲みます」「無重力下では、筋肉を使わないので、体力の維持が大変です」など、地上と宇宙との生活の違いを話してくれました。

「宇宙での生活の大変さが、よく分かりました。交信している途中、宇宙とつながっている実感がわき、感動しました」と土居くん。「自分も実際に宇宙へ行って、青く丸い、生き生きとした地球を見てみたい」と嶋村くん。二人は、目を輝かせながら話してくれました。